

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○文章と図表などを結び付けて内容を読み取ることができている。 ○無回答率が低い。 ●複数の情報を関連付け、わかりやすく文章を書くことに課題がある。 ●選択肢の語句の意味が理解できていなかったり、問題の意味を早合点したりするなど、感覚で解答している様子が見受けられる。	・情報を関連付けて読み取ったことを文章にまとめたり、条件を設定して作文したりする活動を授業や家庭学習で取り入れる。 ・意味が曖昧な語句をそのままにせず辞書で調べる活動や、読書の機会を増やす取組を進める。
算数	○求め方や理由を式や言葉などを使って記述することにおいて、正答率が全国平均を大きく上回っている。 ○高正答率の児童の割合が高い。 ●「割合」の領域において、基にする量を1として比べる量の割合を表す問題の正答率が低い。 ●日常生活に関連する問題において、落ち着いて読めば理解できるであろう内容でも、情報の多さなどから題意を理解できていない。	・単なる計算練習ではなく、算数的思考を基にした立式、計算ができるようにしていく。 ・授業の中で、生活とのつながりのある内容を取り上げたり、算数的活動を取り入れた問題場面を設定したりする。
理科	○全ての領域において正答率が全国平均を上回っており、特に「生命」領域の正答率が高い。 ●金属を扱う「物質・エネルギー」領域において、別単元の学習内容との混同が見られる。 ●直列つなぎと並列つなぎの区別など、基礎的な知識が身に付いていないものが見られる。	・実験用キットを使って学習する際に、作ることが目的にならないように原理を理解させた上で活用する。 ・関連のある単元では、前学年の内容を復習する時間を取り、基礎知識を定着できるようにする。

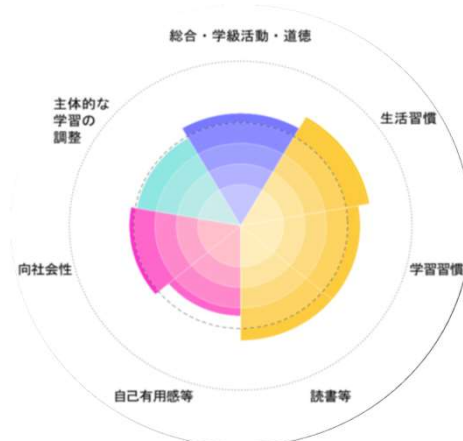
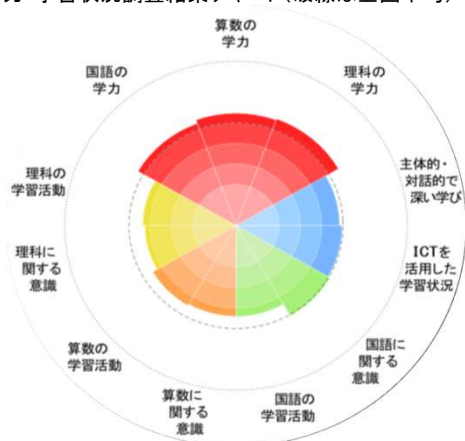
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○自分のよいところを自覚している児童の割合が高い。 ○話し合いを通して、他者の考えをよりよい生活や学習に生かそうとしている。 ●理数科目の学習に対してあまり肯定的ではなく、今後の役に立つ学習であると考えている児童の割合が少ない。 ●授業中のICT活用の頻度があまり高くないと感じている。	・理数科目の学習理解力は低くはないので、実生活や社会との関連を意識した学習活動の機会を増やし、おもしろさや必要感をもって学習できるようにする。 ・ICTの有効活用のための土台として、授業中などにもタブレットにふれる機会を増やして操作により慣れるようにする。

(3)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

学校全体	・新しい言葉やはっきりと意味を理解していない言葉への感度を高め、文章の内容を読み取る力を付けたり、伝えたいことをわかりやすく表現できるように、図書館を中心とした読書推進の取組や、新聞を活用したNIE実践を継続したりする。 ・昨年度から取り入れている記述式の問題を、毎月の漢字・計算会で必ず1問入れることで、各教科特有の言葉を使って表現することに慣れることができるようにする。
------	--

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



【受検者数】

44

名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

